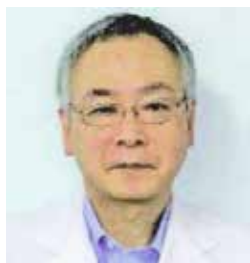
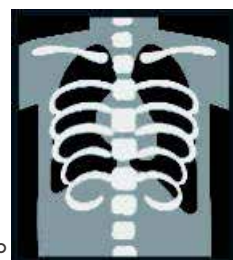


職員紹介



本年 4 月から放射線科に着任した『西村（にしむらげん）玄』です。40 数年医者として働いていますが、6 年ほどの内科のベッドサイドの仕事を除いて、自分のキャリアの殆どは放射線診断でした。レントゲンを中心とする画像検査による診断と品質管理が主な業務です（現場で画像を撮るのは放射線技師がやってくれます）。



普通の X 線撮影に加えて、CT、MRI、超音波検査などが現在の画像検査の中心です。これらの検査が進歩して病気の診断はとても楽に易くなりました。

こういう技術は、私たちの世代の医者の修行時代にはありませんでした。詳しい診断のためには、血管や体の中に入れた管や針から造影剤や空気をいれる血管造影、脊髓造影、関節造影などの負担の大きい検査が必要でした。今では、大きな苦痛なしに大部分の病気が画像機器で診断できるようになっています。これらを正確に使用していくのが、私を含め放射線診断に携わる医者の役割です。一方、こういう技術の進歩につれて私達の先輩がやっていた五感六感を駆使する診断技術は影をひそめていったことは残念ですが…。ただ、今でもベッドサイドで患者さんの状態を第六感で感じる事が、治療の成否を決めることは変わらないようです。

少し墓が立っていますが、もう少し現役で頑張っていようと思っていますので、よろしくお願いします。



この 4 月にリハビリテーション科の医師として着任いたしました、『中内（なかうち）やよい』と申します。

以前、西窪病院時代に一般内科を担当しましたが、この度ご縁ありまして武蔵野陽和会病院に入職させていただきました。心温かな永年勤続のスタッフも多く、緑あふれる武蔵野の勤務はいつも清々しく感じます。

私はずっとリハビリテーション医学を学びたいと考えて研修や勉強会へ継続的に参加しておりました。今回リハビリテーション科を担当させて頂くこととなり、大変有難く、また身の引き締まる思いがいたします。

休日には家庭菜園のプランターで年間約 20 種類の野菜を細々と作っています。今年の夏野菜も既にトマト、ナスなどの一番果が実り順調です。

また、音楽が好きなのでアマチュアオーケストラの演奏会によく行きます。ジャンルに拘らず、オーケストラ、室内楽、金管等のウィンドアンサンブルなど学業や仕事と両立させて音楽を続けている方々等の応援をしてゆきたいと考えています。

当院のリハビリ科では 14 名の作業療法士が在籍しています。明るいスタッフが多いため、和やかな雰囲気の中で訓練を行っています。患者様は訓練にいつも一生懸命取り組まれているので、寄り添いながらなるべく早く退院出来るようサポートしています。

退院するとき笑顔で帰られる姿や、退院後に元気な姿で来て下さると作業療法士をしていてよかったと心から思います。

